

人と意見

新年度新規事業について

岡山県畜産課長 出口孝吉

昭和 39 年度の畜産課予算は、事業費 4 億 386 万円で人件費を加えると 5 億 4,636 万円となり、前年度に比し約 20%の増加である。畜産が各方面から注目されていながら、頭羽数においてもムードにおいても低調の感があるが、この低迷から抜け出すために本年度においては、流通に生産に経営にまた草地改良に格段の努力を傾けなければならないので、予算の効果的活用をはかって行政効果を高めたい。

まず価格流通対策として、牛乳の学校給食事業の推進であるが、国内の安定市場の確保と学童の体位向上を目標に、小中学校児童の 4 分の 1 を対象とした牛乳の年間供給に対して、1 本 4 円 65 銭の補助を行なうもので、国費のほか本年度は県費助成が認められ、また学校の牛乳給食用高温殺菌設備に対しても助成されることとなった。次に食肉の流通改善については、肉用素畜導入事業を総合畜連一本に取扱わせることとし、肉畜の生産から肥育、出荷にいたる一環体制を確立する計画で、本年度は牛 3 千頭、豚 1 千頭の導入を行なう。また総合畜連が東京、大阪向けに枝肉出荷を行なっているが、本年度はこれに助成すると共に、新たに東京事務所に畜産主査を置き積極的に東京向け出荷を推進し、併せて関東、東北向け和牛の販路拡張をはかることにしている。

次に畜産振興の基礎をなす飼料基盤の確立については、大中規模草地改良の補助は大体従来どおり実施するが、本年度から新たに苫田地域に大規模草地の調査を行ない、昭和 41 年度から和牛の放牧育成地域として大規模草地を造成する計画である。蒜山地域の大規模草地造成は本年度が最終であるが、草の効率的利用をはかるために機械乾草設備を設けて価値の高い乾草を調整し草の商品化を実現する計画で、既に機械を導入、6 月中に作業を開始する予定である。

生産対策として特筆すべきことは、優秀なジャージー種雌牛百頭をニュージーランドから輸入購買す

る計画で、県職員を購買護送のために派遣する。蒜山地域のジャージー牛は 3 千頭近くになっているが、地元の熱意によって導入が行なわれるもので、名実共に優秀な種畜供給地域になろう。7 月には購買に出発し、9 月末には血統付の外国牛が到着する予定である。

家畜保健衛生所については、4 月から 9 ヶ所の基幹保衛所に統合したのは御承知のとおりであるが、従来保健所において実施してきた人工授精業務は本年度で体制を整備して、40 年度から全面的に民間に移す計画である。診療については、共済施設の整備等とも関連するが、畜産農家に迷惑をかけないように配慮しつつ、漸次民間に移してゆきたいと考える。

経営関係については、近代的自立経営あるいは企業の経営を育成するために畜産コンサルタント事業が行なわれる。これは社団法人岡山県畜産会におかれる畜産コンサルタント団の活動により、飼育、経営、施設、資金等いろいろな角度からの専門的診断が行なわれ、生産性の高い近代的畜産経営に確立するもので本年は 20 事例について実施される。また寒冷地等畜産振興事業は主産地形成を目的として実施されることになり、本年度は乳牛 2 セット、和牛 3 セットの貸付が行なわれる。

本年度はこのように新事業を推進して畜産振興をはかりたいと考えているので、各位の特段の御協力をお願いする。